

IBM

@server

iSeries

## 平衡型システムのセットアップ

バージョン 5 リリース 3

SA88-5063-03

(英文原典：SA41-5147-03)







@server

**iSeries**

## **平衡型システムのセットアップ**

バージョン 5 リリース 3

SA88-5063-03

(英文原典：SA41-5147-03)

お願い

本書の情報および本書に記載されている製品をご使用になる前に、v ページの『安全上および環境上の注意』および 23 ページの『特記事項』を必ずお読みください。

本書は、SA88-5063-02 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SA41-5147-03  
iSeries  
Setting Up Your Twinaxial System  
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

# 目次

|                                   |           |  |           |
|-----------------------------------|-----------|--|-----------|
| <b>安全上および環境上の注意</b> . . . . .     | <b>v</b>  | ネットワークまたは装置への、フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続 . . . . . | 13        |
| データの保水性および検証 . . . . .            | v         | プログラム一時修正の発注 . . . . .                           | 15        |
| 危険の注記 . . . . .                   | v         | 導入の完了 . . . . .                                  | 15        |
| 注意の注記 . . . . .                   | vi        | システムの作動 . . . . .                                | 15        |
| レーザーの安全上の注意 . . . . .             | vi        | <b>システム装置コントロール・パネル</b> . . . . .                | <b>17</b> |
| 製品のリサイクルと廃棄 . . . . .             | vi        | <b>IPL の準備</b> . . . . .                         | <b>19</b> |
| バッテリー返却プログラム . . . . .            | vii       | <b>外部ケーブル</b> . . . . .                          | <b>21</b> |
| 環境を考慮した設計 . . . . .               | vii       | <b>特記事項</b> . . . . .                            | <b>23</b> |
| <b>平衡型システムのセットアップ</b>             |           | 商標 . . . . .                                     | 23        |
| <b>(SA88-5063) について</b> . . . . . | <b>ix</b> | 電波障害に関する特記事項 . . . . .                           | 24        |
| 本書の対象読者 . . . . .                 | ix        | 情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI)                        |           |
| 前提条件および関連情報 . . . . .             | ix        | 表示 . . . . .                                     | 24        |
| <b>平衡型システムの稼動</b> . . . . .       | <b>1</b>  | <b>索引</b> . . . . .                              | <b>25</b> |
| サインオンとシステム値の設定 . . . . .          | 1         |  |           |
| システムのバックアップ . . . . .             | 4         |  |           |
| モデムの国別識別コードの変更 . . . . .          | 9         |  |           |
| エレクトロニック支援のセットアップ . . . . .       | 9         |  |           |



---

## 安全上および環境上の注意

---

### データの保全性および検証

IBM® コンピューター・システムには、データの破損や損失を見逃さないように設計したメカニズムが内蔵されています。ただし、この危険を完全に除去することはできません。計画外の停止、システム障害、電圧の変動や停止、またはコンポーネントが故障したような場合、停止や障害の発生時かその近辺に行われた操作が正確であったか、あるいは保管または伝送されたデータが正確であったかを検証してください。さらに、機密度や重要度の高い操作ではそのようなデータに依存する前に、独立したデータ検証ができるような手順を確立しておいてください。定期的に IBM サポートの **Web** サイトをチェックして、システムや関連するソフトウェアに適用される更新済みの情報や修正がないか調べてください。

---

### 危険の注記

「危険」は、この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重症を負う危険性のある内容を示します。

## 危険

誤配線のある電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧を誘起させる原因になります。感電事故防止のため、電源コンセントの正しい配線とコンセントの接地端子を正しく接地する作業はお客様の責任で行っていただきます。(RSFTD201)

## 危険

感電事故を防止するために、システムをインストールするときには、信号ケーブルを接続する前にすべての装置の電源コード・プラグを電源コンセントから必ず抜いておいてください。(RSFTD202)

## 危険

装置をシステムに追加またはシステムから取り外すときには、感電事故が起きないように装置の電源コードのプラグを抜いてから信号ケーブルの接続または切り離しを行ってください。できれば、既存のシステムの電源コードをすべて抜いてから、装置の追加または取り外しを行ってください。(RSFTD203)

## 危険

感電事故防止のために、雷の発生時には、通信回線、表示装置、印刷装置、または電話機などのケーブルや避雷器の接続または取り外し作業は行わないでください。(RSFTD003)

## 危険

電圧の異なる 2 つの物体の表面に触れたときに起こり得る感電自己を防止するために、できれば片手で信号ケーブルの接続または切り離しを行ってください。(RSFTD004)

### 注意の注記

「注意」は、この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険性のある内容を示します。

## 注意

電気通信に関する記述: この装置の AC 電源コンセントとこの装置の間には過電圧回路があります。これらの回路は、国際電気標準会議 (IEC) 664、設置カテゴリー II の規準に合致しています。IEC 664、設置カテゴリー II の規準に合致する電源コンセントを用意するのはお客様の責任です。(RSFTC214)

### レーザーの準拠

すべてのレーザー製品は、米国では、DHHS 21 CFR Subchapter J の規定に適合したクラス 1 レーザー製品であることが認証されています。米国外では、これらのレーザー製品は、IEC 825-1 (1984) の規定に適合したクラス 1 レーザー製品であることが認証されています。レーザーの認証番号および承認情報については、各パーツ上のラベルを参照してください。

### レーザーの安全上の注意

## 注意

本製品には、クラス 1 レーザー製品である CD-ROM が含まれる場合があります。(RSFTC240)

### 製品のリサイクルと廃棄

本システムの構成部品のうち、構造部品や回路カードなどはリサイクル施設があればリサイクル可能です。現在 IBM では、下取りする製品以外、IBM 機器を顧客から回収し、リサイクルすることはしておりません。電子機器の分解、再利用、リサイクル、または廃棄は、業者に委託することができます。詳細については IBM 営業担当員にお問い合わせください。

本システム装置には、鉛のはんだを含んだバッテリーや回路カードが内蔵されています。この装置を廃棄する場合には、これらのバッテリーと回路ボードを取り外し、関連法規に従って、廃棄するかリサイクルしなければなりません。本書には、それぞれのバッテリー固有の情報が該当する個所に記載されています。



## バッテリー返却プログラム

米国において、IBM は、使用済みのバッテリーとバッテリー・パックの再利用、リサイクル、および正しい処分の収集プロセスを確立しました。当装置のバッテリーの正しい処分法については、IBM (1-800-426-4333) にお問い合わせください。連絡の際は、バッテリーの上に記載されている IBM 部品番号を調べておいてください。米国以外におけるバッテリーの処分については、その地域の産業廃棄物処理施設にお問い合わせください。

## 環境を考慮した設計

製品や処理の品質改善の一環として IBM は環境を考慮したシステムの設計を行っています。その成果には、製造過程でのクラス I オゾン層破壊物質の使用廃止、製造廃棄物の削減、製品のエネルギー効率の向上などがあります。詳細については IBM 営業担当員にお問い合わせください。



---

## 平衡型システムのセットアップ (SA88-5063) について

本書は、平衡型コンソールのセットアップを完了する上で役立つよう作成されたものです。

---

### 本書の対象読者

本書は、iSeries の扱いに慣れていない、あるいは初めて扱うシステム・オペレーターまたはシステム管理者を対象としています。本書では、ほとんどの iSeries システムで行わなくてはならない基本作業について紹介します。

---

### 前提条件および関連情報

テクニカル情報を検索するための開始点として iSeries Information Center をご使用ください。

Information Center には、次の 2 通りの方法でアクセスできます。

- 以下の Web サイトから

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

- *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 CD-ROM から。この CD-ROM は、新しい iSeries ハードウェアまたは IBM OS/400 ソフトウェア・アップグレード・オーダーに付属しています。この CD-ROM は、以下の Web サイトの IBM Publications Center からオーダーすることもできます。

<http://www.ibm.com/shop/publications/order>

iSeries Information Center には、ソフトウェア・インストールとハードウェア・インストール、Linux、WebSphere®、Java™、高可用性、データベース、論理区画、CL コマンド、およびシステム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) などの新規および更新された iSeries 情報が含まれています。さらに、iSeries Information Center は iSeries ハードウェアおよびソフトウェアの計画、トラブルシューティング、および構成を支援する「アドバイザー」と「ファインダー」を提供します。

ハードウェアを新しく注文するたびに、*iSeries* セットアップおよびオペレーション, SK88-8058-02 が届けられます。この CD-ROM には、IBM @server IBM e(ロゴ)server iSeries Access for Windows と EZ セットアップ・ウィザードが収録されています。iSeries Access Family は、PC を iSeries™ サーバーに接続するために必要なクライアントおよびサーバー機能の強力なセットを提供します。EZ セットアップ・ウィザードにより、多くの iSeries セットアップ・タスクが自動化されます。



---

## 平衡型システムの稼動

サーバーの配線を完了しましたか？

**Yes No**

↓ *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 を参照するか、または次の Web サイトに進みます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

このサイトで、「ハードウェアのインストール」->「サーバーの配線」を選択します。この指示どおりに配線を行ってから、本書に戻り、作業を続行します。

サーバーの電源を入れる前に、以下のことを行ってください。

- サービス技術員の電話番号を聞く。次のような場合には、サービス技術員への連絡が必要になることがあります。
  - ハードウェア障害。
  - エレクトロニック支援の IBM サービス・サポート電話番号を知りたい (米国以外のお客様の場合)。(米国内のお客様の場合、この電話番号は、セットアップ中に自動的に表示されます。)

サービス技術員の番号を知るには、このシステムの購入元販売業者にお問い合わせください。サービスとサポートの番号は、以下の Web サイトにも載っています。

<http://www.ibm.com/planetwide>

- システムを取り外し可能媒体にバックアップする。

下記のステップは順番に行ってください。

---

## サインオンとシステム値の設定

\_\_\_ 1. 「サインオン」画面がコンソールに表示されましたか？

**Yes No**

↓ *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 CD または次の Web サイトに進みます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

このサイトで、「システム管理」->「システム操作の基本」->「システムの問題の分析と報告」の順に選択します。その後で、ここに戻り、次のステップから続行します。

\_\_\_ 2. サーバーにサインオンします。

- a. 「ユーザー」フィールドに **QSECOFR** と入力します。
- b. 「パスワード」フィールドに **QSECOFR** と入力します。パスワードは、入力しても表示されません。
- c. 実行キーを押します。

パスワード **QSECOFR** は、システムの出荷時に有効期限が切れるように設定されています。

「サインオン情報」画面が表示されます。

## サインオンとシステム値の設定

- d. システム装置の前面にあるコントロール・パネルをチェックします。「システム・アテンション」ライトがオンになっていますか？（「システム・アテンション」ライトの位置については、17 ページの『システム装置コントロール・パネル』を参照してください。）

**No Yes**

- ↓ *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 または次の Web サイトに進みます。  
<http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>

このサイトで、「システム管理」->「システム操作の基本」->「システムの問題の分析と報告」の順に選択します。その後で、ここに戻り、次のステップから続行します。

- e. 実行キーを押します。「パスワード変更」画面が表示されます。
- f. 「現在のパスワード」フィールドに **QSECOFR** と入力します。
- g. 「新しいパスワード」フィールドと「新しいパスワード (確認用)」フィールドに新しいパスワードを入力します。新しいパスワードは、次の規則に従っていなければなりません。
- 英字で始まる。
  - 長さは最高 10 文字まで。
  - 英字と数字の任意の組み合わせを含むことができる。一部の特殊文字もサポートされる。

新しいパスワードは紙に書き留め、安全な場所に保管してください。

- h. 「ソフトウェア条項の処理」画面が表示されます。

**5** を入力して、受諾するライセンス・プログラム用のソフトウェア契約を表示し、受諾します。サーバーを使用可能にするには、ライセンス内部コードおよび OS/400 のソフトウェア契約を受諾する必要があります。これらのソフトウェア契約を受諾しない場合は、サーバーをパワーダウンしなければなりません。その他のライセンス・プログラム用のソフトウェア契約の受諾を拒否する場合は、それらのライセンス・プログラムをサーバーから除去する方法についての説明に従ってください。

- i. 「メイン・メニュー」が表示されましたか？

MAIN OS/400 メイン・メニュー システム : XXX

次から1つを選択してください。

1. ユーザー・タスク
2. オフィス・タスク
3. 汎用システム・タスク
4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー
5. プログラミング
6. 通信
7. システムの定義または変更
8. 問題処理
9. メニューの表示
10. 情報援助オプション
11. ISERIES ACCESS のタスク

90. サインオフ

選択項目またはコマンド  
====> \_\_\_\_\_

---

F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F13= 情報援助  
F23= 初期メニューの設定  
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 2003.

**Yes No**

↓ 「メッセージ表示」画面に通知メッセージが表示される場合があります。実行キーを押します。

「メイン・メニュー」が表示されましたか？

**Yes No**

↓ *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 CD または次の Web サイトに進みます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

このサイトで、「システム管理」->「システム操作の基本」->「システムの問題の分析と報告」の順に選択します。その後でここに戻り、次のステップから続行します。

— 3. 以下のステップでは、システムの中断モード、日付、および時刻を設定する方法について説明しています。

a. **chgmsgq qsysopr \*break sev(65)** と入力します。

このコマンドは、システム・オペレーターのメッセージ待ち行列を中断モードに切り替えます。中断モードになると、通常はオペレーターのメッセージ待ち行列に置かれるメッセージが、即時に表示されます。

b. 実行キーを押します。

現在待ち行列にあるメッセージがすべて表示されます。

メッセージ表示

|                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 待ち行列 . . . . : QPADEV0011 | システム : XXX             |
| ライブラリー : QSYS             | プログラム . . . : *DSPMSG  |
| 重大度 . . . . . : 00        | ライブラリー : *             |
|                           | 転送 . . . . . : *NOTIFY |

応答を入力して (必要な場合), 実行キーを押してください。

送信元 . . . : SMITH 02/05/21 17:26:12

I WOULD LIKE TO REBUILD NETFIN. ANY PROBLEM,PLEASE CALL ME.

THANKS,MIKE

終り

F3= 終了 F11= メッセージの除去 F12= 取消し  
F13= すべての除去 F16= 未応答を除くすべての除去 F24= キーの続き

c. 「メッセージ表示」画面が表示されたら、F3 (終了) を押して「メイン・メニュー」に戻ります。

d. 日付のデフォルトの形式は MM/DD/YY です。デフォルトの形式を変更する場合は、**chgsysval sysval(qdatfmt) value(xxx)** と入力します。たとえば、**xxx** は YMD、MDY、DMY、JUL などです。

e. **chgsysval sysval(qdate) value('xxxxxx')** と入力して、システムの日付 (qdate) を設定します。正しい日付を正しい形式で入力してください。

## サインオンとシステム値の設定

日付の入力には 4 つの形式があります。たとえば、2002 年 8 月 28 日の日付は、020828、280802、082802、241 (ユリウス形式) のいずれによっても入力できます。

- f. 実行キーを押します。
- g. `chgsysval sysval(qtime) value('xxxxxx')` と入力して、システムの時刻 (qtime) を設定します。時刻は必ず、24 時間時計の表示に従って入力してください。たとえば、4:30 p.m. は 163000 と入力します。
- h. 実行キーを押します。

「メイン・メニュー」が表示されます。

- i. iSeries コマンド行から制御言語 (CL) コマンドを入力しなければならないステップもあります。CL コマンドは、システム機能を要求するために使用します。

コマンドのオンライン・ヘルプ情報は、次のいずれかの方法で見ることができます。

- コマンド行にコマンドを入力し、F1 (ヘルプ) を押して、コマンドについての情報を見る。

F12 を押すと、「メイン・メニュー」に戻ります。

- F4 (プロンプト) を押して、主要なコマンド群で分類されたコマンドのリストを参照する。

F3 を押すと、「メイン・メニュー」に戻ります。

- j. 『システムのバックアップ』へ進んでください。

---

## システムのバックアップ

**重要:** 次の 2 つのステップで作成する取り外し可能媒体は **1 次コピー** ですので、通常の業務の場所とは別の安全な場所に保管してください。また、通常の業務の場所で使用するためのコピーを作成してください。

この時点で、システムを取り外し可能媒体に保管することを強くお勧めします。この取り外し可能媒体は、障害から回復しなければならないときにシステムの保全性を保つのに役立ちます。システム・データを定期的に保管することが重要です。

さらに媒体の問題に備えて、システムを二重に保管するか、コピーを作成することをお勧めします。よい保管手順の重要な点は、複数セットの取り外し可能媒体を用意することです。

**注:** この手順の完了には少なくとも **1.5 時間** が必要です。

- 1. ブランクのテープ・カートリッジを用意します。システムの保管にはこのテープを使用します。

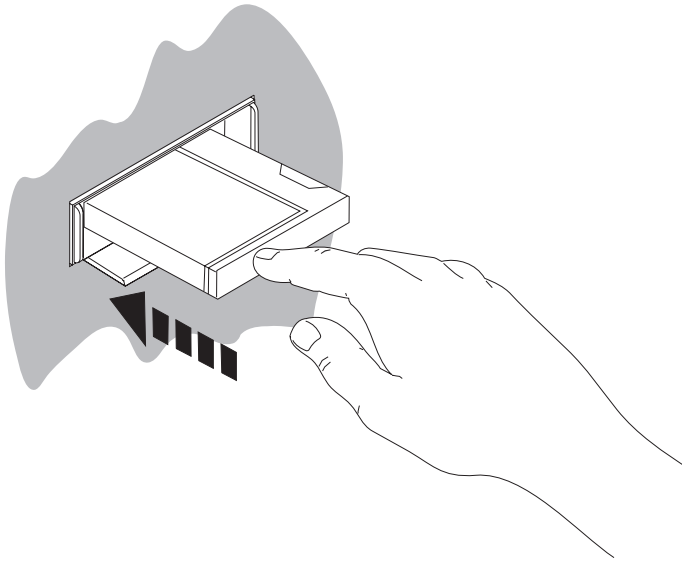
下記のステップは、回復の目的でシステム情報を保管するのに役立ちます。企業や個人情報のバックアップおよび回復の方針としては使用しないでください。そのようなバックアップと回復の方針には独自のものを作成する必要があります。システムを維持し、災害から守る方法については、*iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 または次の Web サイトを参照してください。  
<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>。システムの導入と設定が終了したら、この情報を読んでください。

システム障害によってシステム情報が消失したら、バックアップ・テープを使って情報をシステムにロードして戻します。バックアップおよび回復の手引き, SD88-5008-07 の『正しい回復方針の選択』を参照して、どの回復チェックリストを使用する必要があるかを判断してください。適切な回



復チェックリストを選択する際には、発生した障害のタイプとシステム構成を重要な要素として考慮する必要があります。完全なシステム回復については、「バックアップおよび回復の手引き」の『システムの回復情報』を参照してください。

- 2. バックアップ用にテープを使用していますか？
  - **Yes** : 次のステップに進んでください。
  - **No** : ステップ 4 (7 ページ) へ進んでください。
- 3. 次のようにしてテープの初期設定を行います。
  - a. システムとともに納入されたテープに、「新規ボリューム ID」として **SAVT01** のラベルを貼ります。
  - b. テープを止まるまで挿入します。



RV3U525-1

**注:** テープの張りを適切にするために、テープ装置がテープを巻き戻します。これには、数分が必要です。

次のステップに進んでかまいません。テープ装置が停止するまで待つ必要はありません。

- c. 「メイン・メニュー」で、「汎用システム・タスク」を選択します。実行キーを押します。
- d. 「装置操作」を選択し、実行キーを押します。
- e. 「テープ」を選択し、実行キーを押します。
- f. 「テープの初期設定」を選択し、実行キーを押します。
- g. 以下の情報を入力します。

## システムのバックアップ

### テープ初期設定 (INZTAP)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

|                       |          |                                |
|-----------------------|----------|--------------------------------|
| 装置 . . . . .          | TAP01    | 名前                             |
| 新しいボリューム識別コード . . .   | SAVT01   | 文字値 , *NONE, *CTGID            |
| 新しい所有者識別コード . . . . . | *BLANK   |                                |
| ボリューム識別コード . . . . .  | *MOUNTED | 文字値 , *MOUNTED                 |
| 活動ファイルの検査 . . . . .   | *NO      | *YES, *NO, *FIRST              |
| テープ密度 . . . . .       | *DEVTYPE | *DEVTYPE, *CTGTYPE, *QIC120... |
| コード . . . . .         | *EBCDIC  | *EBCDIC, *ASCII                |
| テープ終了オプション . . . . .  | *REWIND  | *REWIND, *UNLOAD               |
| 消去 . . . . .          | *NO      | *NO, *YES                      |

終了

F3= 終了    F4= プロンプト    F5= 最新表示    F12= 取り消し  
F13= この画面の使用法    F24= キーの続き

上記以外の値はすべて、画面に表示されたままにしておきます。

- h. 実行キーを押します。
- i. テープ装置が巻き戻しを行います。この作業には数分かかります。テープ装置のライトが消えます。
- j. 「テープ」画面が表示され、次のメッセージが示されます。  
ボリューム SAVT01 が所有者識別コード \*BLANK で操作用に初期設定された。
- k. 次のようにしてシステム全体をテープに保管します。
  - 1) 任意のコマンド行に **Go Save** と入力し、実行キーを押します。

画面の次のページに追加のオプションが表示される場合がよくあります。画面の右下に「続く...」が表示されたら、その画面には追加ページがあることを示しています。他のオプションを見るには、次ページへ進み、次の画面を表示します。

**注:** 次ページを表示するキーボードのキー順序は、ワークステーションの表示装置タイプによって異なる場合があります。次ページの表示方法を知る必要がある場合は、表示装置に同梱されている資料を参照してください。

- 2) 「**システム全体**」を選択し、実行キーを押します。

保管処理をどのように行うかを説明するこの画面をお読みください。
- 3) 実行キーを押します。
- 4) 「コマンド省略時の値の指定」画面が表示されます。
- 5) 「オフに構成変更するネットワーク・サーバー . . . . . **\*ALL**」に変更します。
- 6) 最初のページに「ファイル・システムのアンマウント . . . . . **Y**」が表示されています。
- 7) ページを次の画面「コマンドの省略時の値の指定」に進めます。
- 8) 「印刷システム情報 . . . . . **Y**」に変更します。
- 9) 実行キーを押します。

**注:** 下記のステップは、完了までに数分を要する場合があります。画面の左下に **X** が表示されていたら、そのコマンドがまだ処理されていることを意味します。

保管操作では、さまざまなオブジェクトを保管するためのメッセージが多数表示されます。省略時の値が設定されていますので、実行キーを押すだけで保管操作を続けることができます。

保管操作の間にワークステーションの画面がブランクになったら、実行キーかスペース・バー以外のキーを押せば、画面の表示が再び見えるようになります。

- 10) 「サブシステム終了 (ENDSBS)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 11) 「システム保管 (SAVSYS)」画面が表示されます。実行キーを 2 回押します。
- 12) 「ライブラリー保管 (SAVLIB)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 13) 「文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 14) 「オブジェクト保管 (SAVOBJ)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 15) 「オブジェクト保管 (SAV)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 16) 「CHKTAP」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 17) 「サブシステム開始 (STRSBS)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 18) 「保管」画面が表示され、次のメッセージが示されます。

システム全体の保管または復元が正常に完了した。

**重要:** ジョブ・ログを印刷します。ジョブ・ログには保管操作の情報が含まれています。ジョブ・ログを使用して、すべてのオブジェクトが保管されていることを確認してください。次のいずれかを入力します。

**DSPJOBLOG \* \*PRINT**

または

**SIGNOFF \*LIST**

- 19) 保管オプションが完了したら、媒体を取り外します。媒体はセキュアでアクセス可能な場所に保管してください。1 つのコピーはオンサイトで保持し、別のコピーは、オンサイトで予期しない事態が生じた場合に備えてオフサイトに保存します。
- 20) F3 (終了) を押して、「メイン・メニュー」に戻ります。
- 21) 9 ページの『モデムの国別識別コードの変更』へ進んでください。

— 4. 次のようにして DVD-RAM 光媒体の初期設定を行います。

- a. 媒体に **SAVO01** というラベルを貼ります。
- b. DVD-RAM を光媒体装置に挿入します。
- c. 「メイン・メニュー」で、「汎用システム・タスク」を選択します。実行キーを押します。
- d. 「装置操作」を選択し、実行キーを押します。
- e. 「光ディスク」を選択し、実行キーを押します。
- f. 「光ディスク・ボリュームの処理」を選択して、実行キーを押します。
- g. 初期設定のためのオプションを選択します。
- h. 「新しいボリューム識別コード . . . . . SAV00」に変更します。
- i. 「活動ボリューム検査 . . . . . \*no」に変更します。

## システムのバックアップ

上記以外の値はすべて、画面に表示されたままにしておきます。

- j. 実行キーを押します。
- k. 「光ディスク・ボリュームの処理」画面が表示され、次のメッセージが示されます。  
コマンド INZOPT が正常に完了した
- l. F3 を押すと、「メイン・メニュー」に戻ります。
- m. 次のようにしてシステム全体を DVD-RAM 光媒体に保管します。
  - 1) 任意のコマンド行に **go save** と入力し、実行キーを押します。

画面の次のページに追加のオプションが表示される場合がよくあります。画面の右下に「続く…」が表示されたら、その画面には追加ページがあることを示しています。他のオプションを見るには、次ページへ進み、次の画面を表示します。

**注:** 次ページを表示するキーボードのキー順序は、ワークステーションの表示装置タイプによって異なる場合があります。次ページの表示方法を知る必要がある場合は、表示装置に同梱されている資料を参照してください。

- 2) 「システム全体」を選択し、実行キーを押します。

保管処理をどのように行うかを説明するこの画面をお読みください。

- 3) 実行キーを押します。
- 4) 「コマンド省略時の値の指定」画面が表示されます。
- 5) 「オフに構成変更するネットワーク・サーバー . . . . . \*ALL」に変更します。
- 6) 最初のページに「ファイル・システムのアンマウント . . . . . Y」が表示されています。
- 7) ページを次の画面「コマンドの省略時の値の指定」に進めます。
- 8) 「印刷システム情報 . . . Y」に変更します。
- 9) 実行キーを押します。

**注:** 下記のステップは、完了までに数分を要する場合があります。画面の左下に **X** が表示されていたら、そのコマンドがまだ処理されていることを意味します。

保管操作では、さまざまなオブジェクトを保管するためのメッセージが多数表示されます。省略時の値が設定されていますので、実行キーを押すだけで保管操作を続けることができます。

保管操作の間にワークステーションの画面がブランクになったら、実行キーかスペース・バー以外のキーを押せば、画面の表示が再び見えるようになります。

- 10) 「サブシステム終了 (ENDSBS)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 11) 「システム保管 (SAVSYS)」画面が表示されます。実行キーを 2 回押します。
- 12) 「ライブラリー保管 (SAVLIB)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 13) 「文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 14) 「オブジェクト保管 (SAVOBJ)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 15) 「サブシステム開始 (STRSBS)」画面が表示されます。実行キーを押します。
- 16) 「保管」画面が表示され、次のメッセージが示されます。  
システム全体の保管または復元が正常に完了した。

**重要:** ジョブ・ログを印刷します。ジョブ・ログには保管操作の情報が含まれています。ジョブ・ログを使用して、すべてのオブジェクトが保管されていることを確認してください。次のいずれかを入力します。

**DSPJOBLOG \* \*PRINT**

または

**SIGNOFF \*LIST**

- 17) 保管オプションが完了したら、媒体を取り外します。媒体はセキュアでアクセス可能な場所に保管してください。1つのコピーはオンサイトで保持し、別のコピーは、オンサイトで予期しない事態が生じた場合に備えてオフサイトに保存します。
- 18) F3 (終了) を押して、「メイン・メニュー」に戻ります。
- 19) 『モデムの国別識別コードの変更』へ進んでください。

## モデムの国別識別コードの変更

1. 任意のコマンド行に **chgneta** と入力し、F4 を押します。
2. 「ネットワーク属性変更」画面が表示されたら、最後の画面の下部にページを進めます。「モデムの国別 ID」行にカーソルを置き、**F4** (プロンプト) を選択します。
3. 「パラメーターの値の指定 *MDMCNTRYID*」画面の「モデムの国別 ID」フィールドに国別の 2 文字の ID を入力します。
4. 実行キーを 2 回押します。
5. 「メイン・メニュー」が表示されると、次の確認メッセージが表示されます。  
ネットワーク属性 *MDMCNTRYID* が X X.....に変更された。
6. 『エレクトロニック支援のセットアップ』へ進んでください。

## エレクトロニック支援のセットアップ

- \_\_\_ 1. エレクトロニック支援を使用しますか？

**Yes No**

↓ 13 ページの『ネットワークまたは装置への、フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続』へ進んでください。

下記のステップには、エレクトロニック支援のセットアップとアクセスに関する情報と手順が含まれています。

エレクトロニック支援によって、ユーザーのサーバーと IBM の保守システムが接続されます。エレクトロニック支援を使用すれば、ハードウェアとソフトウェアの問題分析、報告、管理をリモートで行うことができます。

- \_\_\_ 2. エレクトロニック支援の情報をセットアップするには、次のようにします。
- a. 必ずユーザー **QSECOFR** としてサインオンします。
  - b. エレクトロニック支援機能用回線に接続されているモデムの電源を入れます。
  - c. 任意のコマンド行で **call qesphone** と入力します。
  - d. 実行キーを押します。
- \_\_\_ 3. このシステムを米国内で導入していますか？

## エレクトロニック支援のセットアップ

### Yes No

- ↓ 担当のサービス技術員に連絡して、IBM 保守サポートの電話番号を聞いてください。  
この手順のステップ 4 に進みます。

「データ域変更 (CHGDTAARA)」画面の「新しい値」フィールドには IBM の保守サポート番号の 1 つが入っていることがあります。

米国東部 (ミシシッピ川以東)...**18002378804**

米国西部 (ミシシッピ川以西)...**18005252834**

- \_\_\_ 4. 「新しい値」フィールドに **1** 次電話番号を入力します。

**注:** 「新しい値」フィールドの長さは合計 32 文字で、このフィールドの右の端にアポストロフィが入っています。電話番号の最後の桁より後のスペースは削除しないでください。文字やスペースを追加したり削除したりすると、エラーになります。

この電話番号の中にスペースや区切り文字を入れないでください。この文字列はアポストロフィで囲んでください。

「新しい値」フィールドの最初の 3 文字は接続情報を示します。先頭の 3 文字には大文字と小文字の区別があります。

- 位置 1 と 2: モデム・スピーカー・オン (SS)

**注:** 7852 または 7857 モデムの場合、モデム・スピーカーの SS 指定を削除してください。

**SS** コマンドが含まれていないときはモデム・スピーカーをオフにするために、モデム・スピーカー値を『never on』に変更します。構成変更についての詳細は、モデムのマニュアルを参照してください。

- 位置 3: トーン・ダイヤル方式 (T) またはパルス・ダイヤル方式 (P)
- 位置 4: 必要な場合に外線に接続する番号 (たとえば 9)
- 外線接続用の番号に続くコロン (:)。これにより、モデムが呼び出しを完了するまでに 10 秒間待つことを指示します。

例 :

- トーン・ダイヤル方式で外線接続番号が 9 ならば、次のように指定します。

```
'T9:18002378804      '
```

- パルス・ダイヤル方式で外線番号が不要ならば、次のように指定します。

```
'P18002378804      '
```

- \_\_\_ 5. 実行キーを押します。

- \_\_\_ 6. 「データ域変更 (CHGDTAARA)」画面が再度表示され、この画面で代替サポート番号を入力することができます。

**注:** 画面が 1 次サポート番号のものか代替サポート番号のものを判断するには、サブストリング開始位置の値を調べます。1 次サポート番号の場合、これは 001 です。代替サポート番号の場合、これは 051 です。

「新しい値」フィールドに代替サポート電話番号 (1 次として使用していないサポート番号) を入力します。

- \_\_\_ 7. 実行キーを押します。



- \_\_ 8. F3 (終了) を押して、「メイン・メニュー」に戻ります。
- \_\_ 9. **wrkcntinf** と入力し、実行キーを押します。

a. 「エレクトロニック支援の処理」画面が表示されます。

「サービス提供元の処理」を選択し、実行キーを押します。

b. 「サービス提供元の処理」画面が表示されます。

\**IBMSRV* 情報と同じ行の「*Opt*」フィールドに **2** (変更) を入力し、実行キーを押します。

c. 「サービス提供元の変更」画面が表示されます。

米国でこのシステムを導入している場合は、以下を入力します (画面にまだ入力されていない場合)。

Hardware service . . . . . **1-800-426-7378**  
Software service . . . . . **1-800-237-5511**

米国以外でこのシステムを導入している場合は、サービス技術員に連絡して、サービス電話番号を聞いてください。日本では、7852 モデムまたは同等モデムの場合 (9600 または 19200bps の場合) :0120-50-0269 5853 モデム、7855 モデムまたは同等モデムの場合 (2400 または 9600bps の場合) :0120-50-5589

d. 実行キーを押します。

e. 「サービス提供元の処理」画面が表示され、次のメッセージが示されています。

サービス提供元 \**IBMSRV* の情報が変更された。

F12 (取消し) を必要な回数だけ押して、「エレクトロニック支援の処理」画面に戻ります。

f. 「保守情報の処理」を選択し、実行キーを押します。

g. 「保守情報の処理」画面が表示されます。

「保守要求連絡先情報の変更」を選択し、実行キーを押します。

h. 顧客情報を入力します。

i. ページを次の画面に進めます。次の画面が表示されます。

j. 「国別言語バージョン」と「*PTF* 送付媒体」のフィールドに正しい情報を入力します。

**注:**

1) 国別言語バージョンのリストを表示するには、F4 を押します。

2) 「*PTF* 送付媒体」フィールドに関する詳細を表示するには、ヘルプ・キーを押します。

k. 実行キーを押します。

l. 「保守情報の処理」画面が表示され、次のメッセージが示されます。

データ域 *QSSF* がライブラリー *QUSRSYS* に作成された。

**注:** すでに連絡先情報を入力済みで、それを変更した場合は、次のメッセージが表示されます。

サポート連絡先情報が更新された。

m. F3 (終了) を押します。

エレクトロニック支援遠隔保守に関する情報の入力これで完了しました。

- \_\_ 10. エレクトロニック支援遠隔保守のテストは、次のように行います。

このステップでは、以下のテストを実行する方法を説明しています。

## エレクトロニック支援のセットアップ

- 接続/登録テスト
- オペレーティング・システム予防保守計画 (PSP) テスト

以下を実行する前に、必ずリモート・サービス情報を入力しておきます。

- a. 接続/登録テストを実行するには、コマンド行に **sndsrvrqs \*test** と入力します。

実行キーを押します。

**注:** 次のメッセージが表示されることがあります。

ローカル・システムが装置 \*N の制御装置 QESCTL に SNA 否定応答データを送った。

実行キーを押して、メッセージをバイパスします。

- b. 要求の状況を示すメッセージが画面の最下部に表示されます。
- c. テストが正常に完了すると、「メイン・メニュー」が表示され、次のメッセージが示されます。  
テスト要求が完了した。
- d. テストは正常に完了しましたか？

**Yes No**

↓ エラー・メッセージをメモして、サービス技術員に連絡します。

これでこの手順は終わりです。 13 ページの『ネットワークまたは装置への、フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続』へ進んでください。

- e. オペレーティング・システム予防保守計画 (PSP) テストを実行するには、**sndptford sf98vrm** と入力します。

バージョン、リリース、モディフィケーションのレベルを知るには、次のようにします。

- 1) 任意のコマンド行に **go licpgm** と入力し、実行キーを押します。
- 2) 「ライセンス・プログラムの処理」画面のコマンド行で「**導入済みライセンス・プログラムの表示**」を選択し、実行キーを押します。
- 3) 現行バージョン、リリース、モディフィケーション (VRM) のレベルが「導入済みリリース」の欄に表示されます。 **V** はバージョン、**R** はリリース、**M** はモディフィケーションの各レベルを表します。

**注:** 「導入済みライセンス・プログラムの表示」画面に「導入済みリリース」の欄が表示されない場合は、F11 を 1、2 度押せば、それが表示されます。 F11 は 3 方向トグルで、導入済みリリース、製品オプション、導入状況を表します。

- 4) オペレーティング・システム® の項の VRM レベルを見つけてください。
- f. 実行キーを押します。
- g. 「連絡先情報の検査」画面が表示されます。

実行キーを押して、情報を受け入れます。

- h. 「報告オプションの選択」画面が表示されます。

「この時点での保守要求の送信」を入力し、実行キーを押します。

その要求の状況を示すメッセージが画面の最下部に表示されます。

- i. PSP カバー・レターを表示するには、コマンド行に **dspttf 5769ss1 sf99410** と入力し、実行キーを押します。



エレクトロニク支援遠隔保守のテストはこれで終わりです。

- \_\_ 11. 実行キーを押します。
- \_\_ 12. 『ネットワークまたは装置への、フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続』へ進んでください。

---

## ネットワークまたは装置への、フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続

- \_\_ 1. ネットワークまたは装置へ接続するフィーチャー・ケーブルが他にもありますか？

**Yes No**

↓ 15 ページの『プログラム一時修正の発注』へ進んでください。

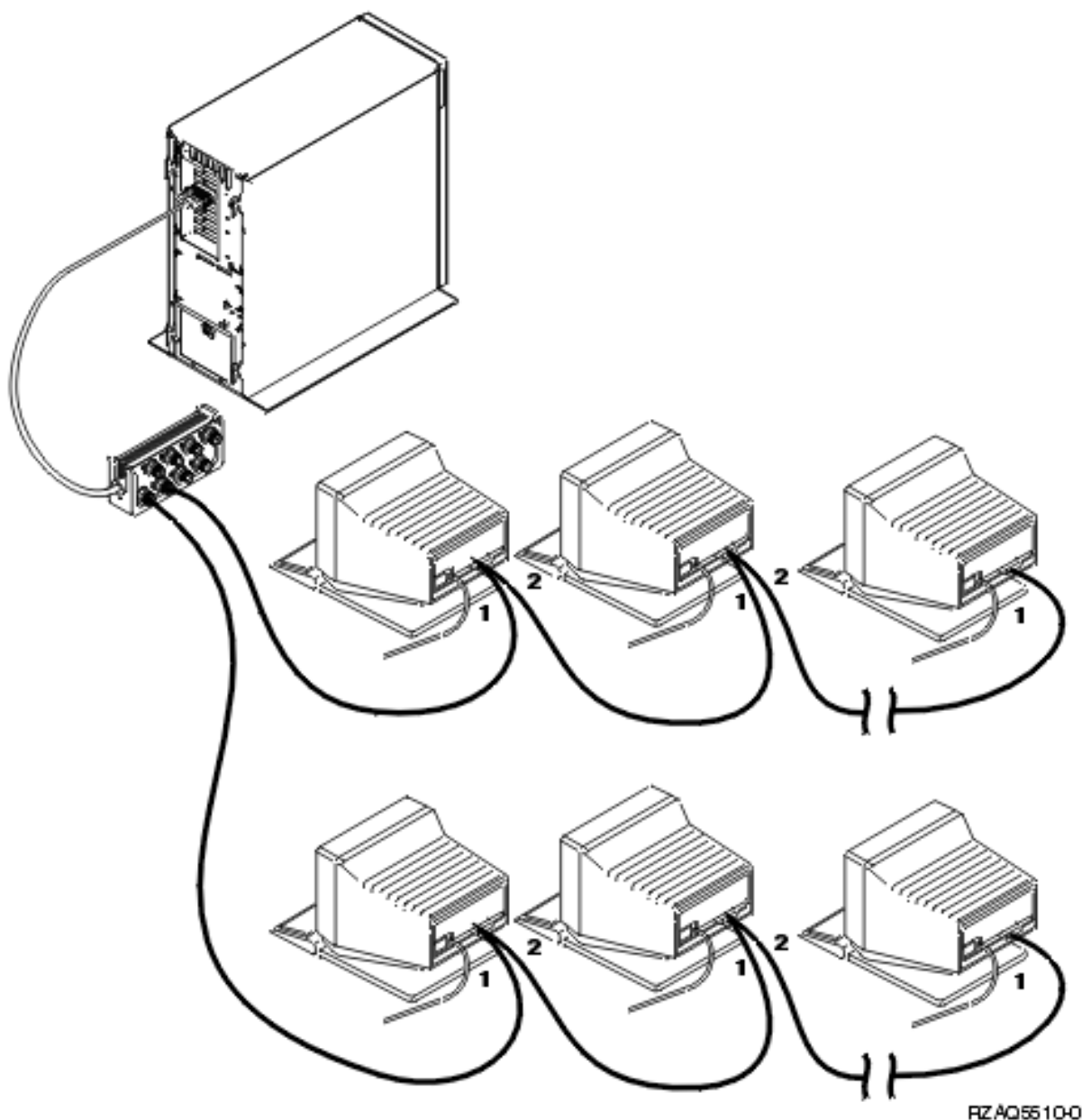
- \_\_ 2. システムの電源をまだ遮断していない場合には、ここで遮断します。
- \_\_ 3. `pwrdownsys *immed` と入力します。
- \_\_ 4. 実行キーを押します。
- \_\_ 5. 接続する平衡型ケーブルがありますか？

**Yes No**

↓ ネットワークまたは装置へフィーチャー・ケーブルを接続します。ネットワークまたは装置に付随してきた情報を参考にして、ケーブルを接続します。ステップ 7 (15 ページ) へ進んでください。

- \_\_ 6. 平衡型通信ケーブルをケーブル上の平衡型コネクタに接続します。

## フィーチャー・ケーブルまたは平衡型ケーブルの接続



ワークステーション (表示装置または印刷装置) には、ケーブルを接続するためのソケットが 2 つあります。ワークステーションは、システム装置の背面に接続された平衡型ポート接続機構に直列に接続されます。

- 1 つのポートに直列に接続した平衡型表示装置には、アドレスを 7 つまで付けることができます。
- 各列の最後のワークステーションには終端プラグが必要です。大部分のワークステーションでは終端プラグがすでに本体に組み込まれていますが、古いモデルの中には外付け終端プラグが必要になるものもあります。外付けの終端プラグが必要かどうかについては、そのワークステーションの資料を参照してください。

アドレスはシステムに接続されたワークステーションごとに与えられます。ポートに接続された各ワークステーション (7 台まで) には、固有なアドレス (0 から 6) が必要です。アドレスは、順番に割り当てる必要はありません。個々のワークステーションのセットアップ・ガイドに記載されているアドレス指定の指示に従ってください。

**注:** このステップでの説明より詳細な情報が必要な場合は、*iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 を参照するか、次の Web サイトに進んでください。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

このサイトで、「計画」を選択します。

- \_\_ 7. システムの電源を入れます。システムが初期プログラム・ロード (IPL) を完了するまでに、最大 10 分が必要です。
- \_\_ 8. 『プログラム一時修正の発注』へ進んでください。

---

## プログラム一時修正の発注

IBM では、特定の IBM ライセンス・プログラムで見付かった問題や発生する可能性のある問題を修正するために PTF を定期的に作成します。

システムの構築時には、その時点で適用可能な最新の累積 PTF パッケージがロードされます。最新の PTF をシステム上に継続して導入することは重要なことです。年に 2 回以上、最新の PTF パッケージを発注し、システムに導入することをお勧めします。

- \_\_ 1. 最新の累積プログラム一時修正 (PTF) パッケージを発注します。最新の PTF の発注については、*iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 CD または次の Web サイトに進みます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

このサイトで、「サービスおよびサポート」->「カスタマー・サービスおよびサポート」->「IBM への接続のセットアップ」の順に選択します。

システムのセットアップは続行できます。ただし、累積 PTF パッケージを受け取ったときは、そのパッケージを適用することをお勧めします。

- \_\_ 2. パッケージを適用したら、本章の最後のセクションへ進んでください。

---

## 導入の完了

システムの使用準備が整いました。おめでとうございます。ソフトウェアやハードウェアの追加、通信の構成、ユーザーのセットアップなどの追加タスクは、必要なときにいつでも行うことができます。

すべての品目を、サービス技術員が使用できるように安全な場所に保管しておいてください。

## システムの作動

システムの名前を覚えやすいものに変更する場合には、次のようにします。システムの名前を変更するには、システムを再度 IPL (電源の切断と再始動) しなければならないことに注意してください。したがって、これを行うのは、PTF を適用するときや、IPL の予定があるときがよいでしょう。

- \_\_ 1. コマンド入力行にネットワーク属性変更 (CHGNETA) コマンドを入力します。

**chgneta sysname(xxxxxxxx)**

**xxxxxxxx** は 8 文字までの英数字です。

## 導入の完了

- \_\_ 2. 実行キーを押します。
- \_\_ 3. システムを再び IPL します。 IPL の完了には最高 20 分が必要です。

**注:** このシステムがネットワーク内にある場合は、ネットワーク管理担当者がいれば、このシステムの名前を何にすればよいか通知されます。ネットワーク内にはない場合は、ユーザーにとって意味のある名前を選びます。

Information Center には、*iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 または次の Web サイトからアクセスすることができます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

## システム装置コントロール・パネル

ご使用のシステム装置の前面に回ります。コントロール・パネルのドアを開けます。

お使いのコントロール・パネルの外観は図 1 または 18 ページの図 2 のようになります。お使いの装置のコントロール・パネルをご覧ください。

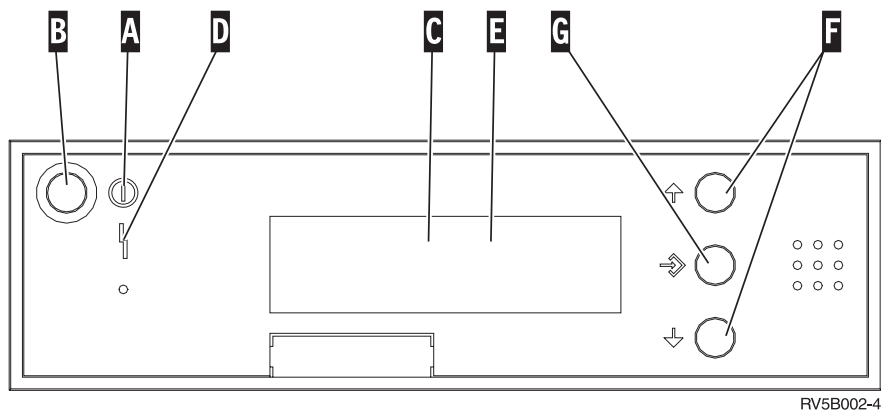


図 1. 電子キースティックのないコントロール・パネル

- A** 「電源オン」 ライト
  - ライトが明滅するときは、装置に電源を供給していることを示しています。
  - ライトが安定してオンになっているときは、装置が起動し、稼動していることを示しています。
- B** 「電源」 押しボタン
- C** 「処理装置活動中」
- D** 「システム・アテンション」 ライト
- E** 「機能/データ」 表示パネル
- F** 「増分/減分」 ボタン
- G** 「機能開始」 押しボタン

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

お使いのコントロール・パネルが次の図のようであれば、**F**「増分/減分」ボタンおよび**G**「機能開始」押しボタンを使用できるようにする前に、**H**「モード選択」を押して、手動モード**N**を選択する必要があります。

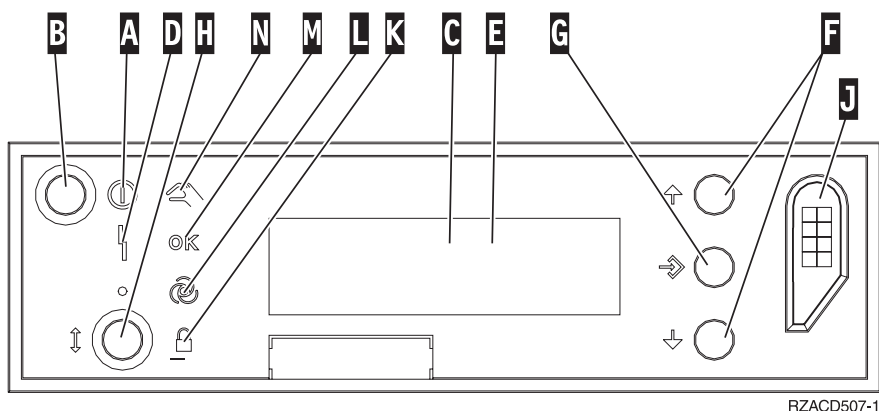


図2. 電子キースティック付きコントロール・パネル

- A** 「電源オン」ライト
  - ライトが明滅するときは、装置に電源を供給していることを示しています。
  - ライトが安定してオンになっているときは、装置が起動し、稼動していることを示しています。
- B** 「電源」押しボタン
- C** 「処理装置活動中」
- D** 「システム・アテンション」ライト
- E** 「機能/データ」表示パネル
- F** 「増分/減分」ボタン
- G** 「機能開始」押しボタン
- H** モード選択
- J** 電子キースティック・スロット
- K** 保護
- L** 自動
- M** 通常
- N** 手動

## IPL の準備

### 危険

誤配線のある電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧を誘起させる原因になります。感電事故防止のため、電源コンセントの正しい配線とコンセントの接地端子を正しく接地する作業はお客様の責任で行っていただきます。(RSFTD201)

\_\_ 1. **重要:** システム装置の電源を、まだオンにしないでください。

システム装置からの電源コードを、電源コンセントまたは無停電電源装置に差し込みます。

\_\_ 2. システムは、約 30 秒間内部テストを行います。

\_\_ 3. 「機能/データ」表示パネルに **01 B M V=S** が表示されましたか？

\_\_ **Yes:** ステップ 6 (20 ページ) へ進んでください。

\_\_ **No:** 以下の手順を実行してください。

\_\_ a. 「機能/データ」表示パネルに **02** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。

\_\_ b. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

\_\_ c. 「機能/データ」表示パネルに **B** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。

\_\_ d. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

\_\_ e. 「機能/データ」表示パネルに **M** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。

\_\_ f. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

\_\_ g. 「機能/データ」表示パネルに **S** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。

\_\_ h. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

\_\_ i. 「機能/データ」表示パネルに **01** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。

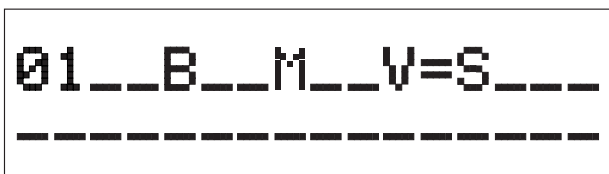
\_\_ j. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

「機能/データ」表示パネルに **01 B M S** が表示されます。表示されない場合は、ステップ 3a から 3j を繰り返します。

\_\_ k. ステップ 4 (20 ページ) へ進んでください。

## IPL の準備

- \_\_ 4. 「機能/データ」表示パネルに **01** が表示されるまで、「増分/減分」押しボタンを押します。



RZAQ5500-0

- \_\_ 5. 以下を行って、IPL タイプ、モード、および速度を検査します。
- a. 「機能開始」押しボタンを押します。「機能/データ」表示パネルに **01\_\_B\_\_N\_\_V=S\_\_** が表示されます。
- \_\_ 6. コントロール・パネルにある「電源」押しボタンを押します。約 10 秒待つと、「電源オン」ライトがオンになり、「機能/データ」表示パネルにデータが表示されます。

**注:** システムに電源を入れてから IPL が完了するまでは、およそ 5 ~ 10 分かかります。IPL が完了したら、「サインオン」画面がシステム装置のコンソールに表示されるはずですが。



## 外部ケーブル

この表を使用して、装置の背面にある該当するアダプター・カードにケーブルを接続します。

**注:** ケーブルがシステムとともに納入されなかった場合は、お客様がそれを用意する必要があります。

表1. ケーブルおよびアダプター・カード


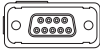


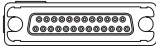
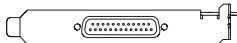


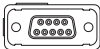
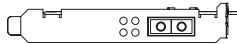

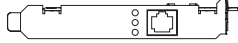


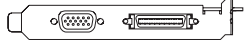
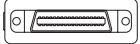

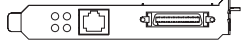
| ケーブル — 部品番号、型、<br>およびコネクター・エンド   | アダプター・カード (サーバーの背面にあります)  |
|--|---|
| <b>広域ネットワーク (WAN)</b><br>次のいずれかの部品番号: 44H7xxx または 97H73xx<br><br><b>平衡型</b><br>部品番号 72X5645<br>  |   |
| <b>2 回線 WAN</b><br>次のいずれかの部品番号: 44H7xxx または 97H73xx<br>   | 2745/2742 2 回線 WAN 入出力アダプター<br> |
| <b>平衡型</b><br>部品番号 12F5093<br>  | 2746 平衡型ワークステーション入出力アダプター<br> |
| <b>トークンリング</b><br>RJ45 トークンリング<br><br>フィルター P75G5958 または 75G2865<br><br>6339098<br> | 2744 トークンリング入出力アダプター<br>      |
|  | 2805 4 ポート・モデム  |
| <b>非同期転送モード</b><br>カード 2816: マルチモード・ファイバー<br>(MMF)、62.5 ミクロンのインターフェースまたは<br>  | 2817 PCI 155Mbps MMF ATM<br>  |

表 1. ケーブルおよびアダプター・カード (続き)

|   |   |
|---|---|
| <p>イーサネット</p> <p>RJ45 イーサネット</p>   | <p>2838/2849 PCI 100/10Mbps イーサネット・アダプター</p>   |
| <p>統合 xSeries サーバー拡張機構</p> <p>部品番号 45H2433</p> <p>44H8677 はケーブル 45H2433 に接続</p>  <p>ビデオ延長ケーブル 44H8676</p>     | <p>2891/2892 統合 xSeries サーバー・カード</p>           |
| <p><b>2 回線 WAN</b></p> <p>44H7xxx、97H73xx、または 44H748x</p>  <p>内蔵モデム</p> <p>87G62xx、21H49xx、または 75G38xx</p>  | <p>2793/2794/2771 基本 PCI 2 回線 WAN (モデム付き)</p>  |

---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、または サービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書で指定された機械の操作または計画の目的で、お客様営業員が使用するものです。その他の目的には使用しないでください。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AS/400  
IBM  
iSeries  
Operating System/400  
OS/400

Lotus<sup>®</sup>、Freelance、および WordPro は、IBM Corporation の商標です。

C-bus は、Corollary, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

ActionMedia、LANDesk、MMX<sup>™</sup>、Pentium<sup>®</sup> および ProShare は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Windows NT<sup>®</sup> および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET<sup>™</sup> および SET ロゴは、SET Secure Electronic Transaction<sup>™</sup> LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX<sup>®</sup> は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 電波障害に関する特記事項

### 情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

#### 電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

---

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [カ行]

完了、導入の 15

### [サ行]

サインオンとシステム値の設定 1  
初期プログラム・ロード (IPL) 19  
セットアップ、エレクトロニック支援の  
9

### [タ行]

通信ケーブルの接続、ネットワークまたは  
装置への 13

### [ハ行]

バックアップ、システムの 4  
発注、プログラム一時修正の 15  
平衡型ケーブルの接続、ネットワークまたは  
装置への 13

### I

IPL、システム装置の 19







Printed in Japan

SA88-5063-03



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12